

きらりNet

手の動きに着目して・・・

「箸がうまく持てない」「ボタンのとめはずしが苦手」など、日常生活動作に困難を抱えやすい傾向の子どもはいませんか？手を使った遊びを楽しめない子どもはいませんか？

手先の不器用さには、手を動かす経験の不足が関係していると言われています。手にはいくつかの機能があり、それらを使う経験が必要です。

よくある悩み・・・

箸がうまく持てない。

文字を書くとき、えんぴつの筆圧が一定しない。強弱どちらかにかたむく。

ボタンのとめはずしなど、着替えが苦手。

ジャングルジムやターザンロープなど、握力を使う遊具でうまく遊べない。

★もしかしたら、手の機能が育っていない？

手の動きの基礎は、力強く握る「パワーグリップ」や、手のひらで体重を支える「手掌支持」の経験によって育ちます。その経験が不足していると、手先が不器用になりやすいのです。基礎ができると、指の「つまむ機能」と「にぎる機能」も発達していきます。

もしくは、★手元に注意が向いていない？

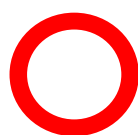
★手のボディイメージが未発達？

対応として・・・

手を使った遊びをしてみよう

例えば、アスレチック遊び。よじのぼる遊びは、手や指を使ってつかむ動きで手先の感覚が育ちます。くぐる遊びは、体や手足を曲げて通る動きでボディイメージが育ちます。

その際、アスレチックやブランコ等の縄やくさりをつかむときの、親指に注目することが大切。親指がほかの指の対向の位置にあり、手のひらで支えているのが「パワーグリップ」です。手の器用さの基本はここから。パワーグリップや手掌支持の経験を積み、基礎ができれば、指をこまかく動かす経験に入っていくことができます。



☆パワーグリップ



☆フッキング

親指がほかの指の平行位置にあり、また、手のひらも使われていない。

★ ちらりの実践 高等部 自立活動「表現II」 ★ その⑧

自立活動を主とする学習グループ

★ (高等部1～3年)の実践

★ キーワード：表現活動での工夫

「人間関係の形成」と「コミュニケーション」に重点を置き、劇を活動の主軸とした授業づくりをしています。自分でやりたい役を選び、感じた気持ちを表し、劇のせりふや動作を表現することで、自ら役割を果たして劇に参加する～その姿をめざして『月ってどんな味?』という劇に取り組みました。(原作：マイケル・グレイニエツ著『お月さまってどんなあじ?』)

【支援のポイント】

①「見通し」「期待感」「一体感」のもてる演出

- ・全員がつながっていく演出（「はしご」に順番に役の動物を取付けていく）
- ・徐々に月に近付いていく演出（天井の月の映像から、暗幕で隠れた月の大道具が目の前にやってきて、生徒の手で暗幕を取り、「月のかけら」をもらう）

②生徒がせりふや気持ちを表現できる環境設定

- ・同じ役を継続して練習
- ・待つ場面の設定（自分のせりふはもちろん、全員の掛け声についても生徒の発声をきっかけに行えるように待つ）
- ・教師間で即時評価（発声や表情、動作のせりふや気持ちの表現をすぐに称賛）

自分の役のパープサート

- ・周囲に役割を示す。
- ・自分の役を確認できる。



天井の月までもう少し
「ワン、ツー、スリー!!!」

はしごと動物



じゃーん届いたー。
「やったー!!!」

月の演出

- ・天井に月の写真を映写。
- ・大道具の月はダンボールに金紙を貼った直径2m。キャスト付きで前後左右に移動可能。

〈文責：佐藤篤〉

教育専門監のコーナー

子どもが活動する「子ども主体」の授業づくり

重い障害のある子どもの自己決定の力を支え育むために

自己決定の発達の視点：初期の段階で育てたい力

- 1 子ども自身が楽しめる活動・見通しをもって意欲的に取り組める活動があること
- 2 選択・問題解決すること
- 3 周囲との関係の中で自己調整すること

自己決定のコミュニケーション的視点

- 1 子どもが周囲の人や環境から、自己決定に必要な手がかりを受信すること
- 2 手がかりを受けて、子どもが自己決定し発信をすると、周囲の人や環境がそれに応えること
- 3 子どもが自分の発信により、周囲の人や環境に何らかの変化をもたらしたということを受信すること

参考文献：「障害の重い子どもの授業づくり Part 3」

「ぱれっと (PALETTE)」(ジアース教育新社)

生徒が周囲になんらかの手段や形で現す感情、欲求、そして内面にある思い、過去の経験、感動。生徒が表現する様々な「言葉」を大切にしている学習、それが高等部自立活動「表現」の実践です。

大切にしているのは「言葉」による伝え合い。物語の楽しさと、役者さんとの関わりで生まれる共感的な関係が、子どもたちの「伝えたい」をくすぐります。自ら役を選び、演じることで育まれる自己決定する力、読み手と聞き手、互いを認め合うことで育まれる生徒の自尊感情。

生徒の主体的な活動と参加、役割と責任で物語の世界が繰り広げられます。生徒の心の内からわき上がる豊かな表現、生き生きとした表情、内面の広がり、物語に奥行きをもたらします。

物語を題材に“見る力”、“聞く力”、“注意する力”の獲得を目指した、生徒の心を揺さぶる取組となっています。

〈文責：二階堂 悟〉

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

